

朝・夕はめっきりと涼しくなり、つい厚着になりがちです。しかし、寒暖の差が激しいこの時期こそ薄着の習慣をつけて、冬の風邪に負けない丈夫な体をつくりましょう。

地域的には、嘔吐・下痢(感染性胃腸炎)が、発生している様なので気をつけましょう！

これからは、本格的なカゼやインフルエンザのシーズンに入ります。今年度(11月)より、園内での感染症の蔓延防止のために、幼児(3才~5才)は、登園後、「手洗い・うがいをしてからの受入れ」のご協力・ご理解をお願い致します。子どもたちの生活に定着するまでは、こまめな、言葉がけと見守りをしていきましょう。

保健行事

歯科健診 11月5日(火曜日) 9時30分より嘱託医の桜井先生による

0才児健診 11月19日(火曜日) 14時30分より嘱託医の吉崎先生による

※今月より、0才児健診は、月に1回となります。身長・体重測定もしています。

※両日とも地域の方もぜひお子さんと一緒にお越し下さい。

カラーテスター 4・5才児対象となります。歯科健診後に予定しています。

歯の表彰について

保育園における歯科健診の目的は、早期発見、早期治療です。園においては、子どもの心身の健康を守ることと、幼児(4才児)からは、自分で守ろうと思う意識をもってもらうために下記の『歯の表彰』を行っています。

♥ 『むしばがなかったでしょう』…虫歯がなかった子

♥ 『むしばをなおしたでしょう』…健診の結果、虫歯の疑いまたは、虫歯がある場合に歯科通院して、その結果を園に提出した場合。(配布した用紙に歯科医の検印をもらって下さい！)

♥ カラーテスター後に、下記『〇〇しょう』を対象クラスの全員に発行しています。

4才後期『かがみをみながらみがきましょう』

5才前期『すなどけいをつかいましょう』 5才後期『ひとりでみがきましょう』

※いずれも4・5才児対象です。3才児に関しては、前期は、歯みがきのスタート期のため後期になってから表彰の対象となります。



予防接種で免疫をつくる

集団生活をおくる保育園は、同年齢や異年齢の集団であるため、子どもがかかりやすい病気が発生すると、あっという間にひろがってしまいます。症状が軽い病気は、上手に乗り越えさせて免疫を獲得させる事ができますが、重い合併症をおこす病気は予防接種で免疫を得ることで、個人としても集団としても予防が可能になります。



予防接種についてのお願い

- ・ 予防接種後は、副反応(接種部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけなど)を考慮し、登園する前に病院に寄り、接種していただくようお願い致します。降園後の接種(週末であるとゆっくりと休めるので、なお良い)をお願い致します。
 - ・ 予防接種を受けたら園にもお知らせください。(連絡帳や連絡ノートへの記入でも構いません)
 - ・ やむを得ず登園させる場合は、全身状態に変化や副反応が起きていないか、接種後30分~1時間ほどは観察してから登園するようにしてください。
 - ・ 接種した日は、普段どおりの生活でかまいませんが、(お風呂も可)はげしい運動は避けましょう。(厚労省 予防接種ガイドライン 一般的注意事項 を参考にしています。)
- 尚、予防接種の件でご相談がありましたら、看護師まで、お声をかけて下さい。

☆ 予防接種は計画的に体調の良い時に受けましょう

裏もあります。

登園の目安について

風が冷たく、寒い日が多くなりました。低温、低湿度の冬は、カゼやインフルエンザ、胃腸炎、RSウイルスなどの感染が広まりやすくなります。集団保育の場では、具合が悪いからといっても、個人の安静を守ってあげることは、なかなか難しいものです。無理をして登園しなくてはいけない場合、子どもにとってもつらいうえに、病気を長引かせてしまうことにもなりがちです。

	こんな時は休みましょう	登園できます
発熱	<ul style="list-style-type: none"> ・活気・機嫌が悪い、食欲がない、37.8度以上 ・24時間以内に38度以上あった ・24時間以内に解熱剤を使った 	<ul style="list-style-type: none"> ・前日38度を超える熱がない ・朝は37.8度以下で活気・機嫌も良い ・咳・鼻水の症状は悪くなっていない
咳	<ul style="list-style-type: none"> ・咳のため夜間に起きる ・連続して咳き込む、呼吸がつかう ・機嫌、食欲がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・連続した咳がない ・喘鳴やつかうような呼吸がない ・機嫌が良く食事もしっかりしている
下痢	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上水様下痢あり ・食事毎に下痢になる ・朝に排尿がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上水様下痢なし ・食事をしても下痢にならない ・排尿回数がいつも通り
嘔吐	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の嘔吐あり ・食欲や活気がない ・嘔気があり、いつもより体温高め 	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の嘔吐がない ・食事をしても吐かない ・機嫌がよく顔色も良い
発疹	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱に伴って発疹がある ・口内炎で食事が摂れない ・とびひでは・ 顔などで患部を覆えない 患部を掻いてしまう ジクジクして健児に感染の恐れあり 	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医の診察を受けた結果感染の恐れなし 全身状態がよいと診断された

※ 葛飾区私立保育園連盟における医師による研修会の資料より、抜粋しました。登園の目安にして下さい。また、病児・病後児保育室の登録をして、病みあがりのつらい時期を、段階を踏んで集団保育に臨む事の目安にして下さい。

冬場の園内での衣服について

たくさん着て暖かくしていれば風邪をひかないかというところでもありません。薄着の方が、外気を皮膚で敏感に感じ、それに対して身を守る仕組みや調節機能を高められ、寒さに対する抵抗力が強くなり風邪をひきにくい丈夫な体を作られます。下着と上着では、素材や糸のより方が異なるので下着は1枚が良いと思います。冬は、肌着1枚で4℃暖かくなります。長袖下着に関しては、上から衣服を着たときや手洗い後など、自分で上手に伸ばせないために肘にまとわりつくなども考えられるために園では、お勧めしていません。また、朝晩、寒い時は、ベストで対応しましょう。ベストの活用は背中を暖め、動きをさまたげません。必要なお子さんは、園用にベストを1枚お持ち下さい。園では、日中は、外気や室温、活動、個々の健康状態などに合わせて担任が衣服の調整をしています。



寒さの厳しいこの時期は、園用として、防寒着を預かっています。大き過ぎたり、小さ過ぎたり、フード付きや厚手であったりとそのお子さんに合っていないと、活動を妨げたり、転倒など、安全性の危険も考えられます。そのような時には、こちらから、個別に、声をかけさせて頂いています。※フード付きの場合、フードが遊具やドアノブ等に引っかかったり、引っ張られたりする危険性がありますので、フードのない物をお願いします。フードが付いている場合は、職員が、内側に折り込んで着用している場合もあります。

※裏起毛は、保温性は高いですが、脱ぐ時に静電気が起きやすい(裏起毛は、ポリエステルなどの化学繊維が含まれている)、熱がこもりやすく、蒸れやすい、動きにくい、また、園では、お昼寝の時は、下着なしでお昼寝をしているなどから、園の中では、お勧めしていません。